

## SOS→そう、思ったら、そう！

校長 岩田 明正

題名を読んで「???」と思われたのではないのでしょうか。これは2月21日(月)に行われた人権講演会で講師の方がおっしゃっていた言葉です。この日お招きしたのは、アテネパラリンピック水泳の銅メダリスト杉内周作さんです。東京パラリンピックの水泳の解説者としても大活躍された方です。本校事務職員の鶴田さんのお知り合いというご縁で今回の講演会が実現しました。なお、この講演は本来でしたら全校児童でお聞きする予定だったのですが、感染症対策から今回は6年生に講演していただき、他の学年は後日、録画したものを放送することになっています。

杉内さんはどんどん視野が狭くなる病気で、今現在も視野は10度未満、今後もその症状は進行していくとのことでした。このことを知った時、助けてくれ！SOS！と思ったそうです。しかし、杉内さんはその状況から自分のSOSを見出していきました。それが「そう 思ったら そう！」頭文字をとってSOS。つまり思いたったことがあったらやってみようということです。

これは簡単そうでなかなかできないこと。あれやってみたい、こういう風にしたいと思っていても、それを実際に行動に移したり、実現させるために行い続けたりする人は案外少ないものです。私も実行する前にあれこれ理由をつけて後回しにしたり、言い訳めいたことを言って結局やらなかったり、やってもすぐやめてしまったり…。

しかし、思ったことを実現するため、夢を叶えるために必要なことは、その夢を明確にし、それに向けて大事な要素を洗い出し、どのような方法を使っていくか。本気で実行し、その行動を正しく認識しながら継続していくことである。というお話は心に響きました。そして、周囲の人が支えてくれることへの感謝「ありがとう」も大切であると。

杉内さんの場合はそれが水泳であり、アテネで泳ぐという目標になったわけですが、自分の思いを形にしていくことは誰もが願っていることです。そのことを、困難を抱えつつも実現している方から、はっきりと示していただけたことは子どもたちにとってとても大きなことだったに違いありません。

そういえば先日、北京での冬季オリンピックが閉幕しました。様々なアスリートの活躍に胸を熱くした方々も多かったのではないかと思います。なぜ私たちは彼らに感動するのか。それは彼らが様々な困難を乗り越え、時には思わぬアクシデントで努力が報われなくても、そこから立ち上がる姿を見せてくれるからではないかと思います。彼らの姿に「凄いな」「立派だな」というだけではなく、そのことからSOS、「そう思ったなら、そういう風に自分たちもやってみよう」という気持ちを持つことが大事なのだ！と子どもたちだけではなく、この頃、コロナウイルスにより、ちょっと気持ち落ちている私も、心震わせて聴き入ったひとときでした。

さて、令和3年度も残すところ、あと1ヶ月となりました。6年生は卒業し、1～5年生もそれぞれ次の学年へとステップアップしていきます。引き続き本校へのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 2月 各学年の活動の様子

### 1年生 「図工 かみざらココロ」

かみざらココロの学習では、材料の形や大きさを見て、どのように転がるものができるかを想像しながら作業しました。

「こういうくっつけ方でもころがるよ。」といった、新しい発見があったり、「うまくつかないなあ。」と、接着に試行錯誤する姿が多くあったりしました。

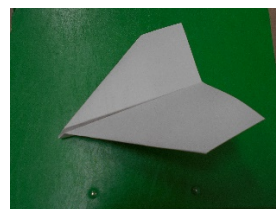
図工の学習では、絵や工作など様々なことに挑戦しました。どんなことが思い出に残っているか、ご家庭でも話してみてください。



### 2年生 「冬のまち」

生活科の学習で、花さかクラブの方たちと植えたチューリップの球根を見に、遊水地公園に行きました。まだまだ小さいですが、緑のかわいい芽が出てきていて、「何色の花が咲くのかな？」と、これからの成長が楽しみな様子でした。

春のまち探検で遊んだ時の遊水地公園の様子と比べながら、冬を感じながら落葉した木に花のつぼみを見つけたり、北風に乗って紙飛行機を飛ばしたりしました。



### 3年生 「歯みがき指導」

歯並びにあった歯のみがき方を、歯科衛生士さんに教えていただきました。こどもの歯が抜けて、しっかりとした大人の歯になるまで3年かかるそうです。事前に、歯垢染色剤でみがき残しのあるところを確認しておき、これからの歯みがきのめあてを立てました。みがく場所によって歯ブラシの向きや当て方が違うことを知り、熱心に模型で調べていました。これからも歯みがきを大切にしていってほしいです。



### 4年生

#### 「箱の形の特ちょうを調べよう」

算数の学習では、直方体と立方体の特徴について調べる学習をしています。

展開図をかき、実際に直方体や立方体を組み立てる活動をしました。どの面とどの面がとなりあうのか、組み立てたり展開したりする動きを繰り返すことで、理解を深めていきました。

平面から空間を認識するというのは、かなり難しいことですが、具体的な操作を通して、面や辺にも垂直や平行の関係があることをとらえることができました。





## 5年生「稲作体験」

1年かけて総合的な学習の時間で取り組んできた「稲作体験」も残り「荒起こし」で終わりを迎えます。5月には「田起こし」「代かき」を、10月には「稲刈り」「脱穀」を体験しました。夏の日差しが照り付ける中草取りをしたり、雨が降りしきる中脱穀を行ったりと、農家の方の苦勞を肌で感じることができました。11月には丹精込めて作ったお米をおこわで味わい、収穫の喜びを知るとともに、普段何気なく食べているものへの感謝の気持ちを改めて得ることができました。



## 6年生「プログラミング・人権学習」

理科の学習で「プログラミング」の体験をしました。意図した動きをさせるために、条件と動作を組み合わせて micro:bit に書き込みました。学習を通して、身近なものにもプログラミングが使われていることを知り、どのようなプログラムがされているのかを予想する姿も見られました。

人権学習では、パラスポーツについての講話を通して、「コツコツと努力をしていきたい」や「感謝の気持ちを忘れずに生活したい」など、夢を実現させるために大切なことについて一人ひとり考えを深めました。



## 個別支援級「SDG'sの取り組み」

4組の子どもたちで、SDG'sの取り組みを行っています。SDG'sを紹介する映像を制作したり、裏紙を再利用してメモ帳を作ったりしています。メモ帳に4組らしさを出すために、4組のマスコットキャラクターづくりにも取り組んでいます。地球のこれからについて考える良いきっかけになればと思います。



## 専任より

新型コロナが、日本で流行し始めたときに紙芝居を作りました。それは、**・熱が出た本人が一番不安な気もちになっている。・誰にうつされたの?という「詮索」、コロナになったらしいという「噂」は、相手を傷つける。・大丈夫?お大事にね。不安になることあるよね、という「労り、優しさ、共感」は、相手を元気づけることができる。・自分だったら、なんて声をかけますか?自分だったら、なんて声をかけてもらいたいですか?という7枚の短い紙芝居です。折を見て、2度ほどテレビ朝会で紹介をさせていただきました。朝会のあとで、紙芝居の内容をメモして見せてくれた児童がいたり、2度目のときには「覚えているよ」と言ってくれたりして、真剣に聞いてくれたことが伝わってきました。舞岡小の子どもたちの心のあたたかさを日々感じています。**

最近になって、やっとコロナに罹患しても謝らなくて大丈夫な風潮が出てきたと感じ、ホッとしています。上記のような紙芝居を読んで、コロナ罹患によるいじめに発展しないよう気をつけて様子を見ています。あとは、療養期間が長くなったことで、学校に行きたくなくなってしまう子が出てくるかもしれません。いずれにしても、ご家庭だけで悩まず、すぐに学校にご相談ください。